

言葉の壁を超える「防災アンバサダー」

松山市消防局 西消防署
消防副士長 石井 直輝

「大丈夫ですか？何かできることはありますか？」
突然目の前で倒れた外国人に対して、この言葉をかけることができるでしょうか。

平成 23 年 3 月 11 日。東日本大震災が発生した当時、大学生であった私はドイツにホームステイをしていました。異国の地で連日報道される母国の凄惨な様子に、胸が締め付けられ、同時に「今、同じような災害がこの国で発生した場合、日本語が通じない状況で私は助かるのだろうか...」という例えようのない不安を抱きました。

帰国し数日経ったある日。駅で電車を待っていると、目の前にいた外国人が急に倒れたのです。突然の状況に私が呆然としている中、一人の男性が声をかけました。

「Are you ok? Can I help you?」

そう英語で問いかけられたことで、倒れた方はとても安心した様子でした。私は、その時の安堵の表情を今でも忘れることができません。

外国人にとって「言葉の壁」は一番の不安要素です。しかし、その中で自分の分かる言葉を耳にすると、何よりも心の支えになります。あの時男性がかけた言葉は、不安な気持ちの外国人にどれだけの安心と希望を与えたことでしょうか。

私の住む松山市は、道後温泉を有する全国でも有名な観光地です。平成 28 年中に松山市を訪れた外国人観光客は 18 万 7,500 人、また約 2,800 人が在住しており、その数は年々増加傾向にあります。全国的にも東京オリンピックの開催を迎えることもあり、外国人観光客は 4,000 万人以上が見込まれています。

そんな中、突然災害に襲われ、外国人がぶつかる言葉の壁。
「あの日の男性のように分かる言葉で支援してくれる人がいれば外国人への負担は軽くなるのではないだろうか...」
その想いは消防士を拝命して 4 年が経った今、さらに強くなりました。

そこで私は多言語対応型機能別消防団員『防災アンバサダー』の導入を提案します。『防災アンバサダー』とは、市内の外国語ボランティア、外国語教員、留学生を中心とした機能別消防団員であり、大規模災害時、様々な国の言語で避難誘導や避難所生活の支援を行うことで、外国人被災者の心の受け皿になります。また、火災や救助事案の現場に防災アンバサダーを要請することで、通

訳による現場活動の円滑化を進めることができます。

災害時以外にも防災アンバサダーの活動はあります。

まず一つ目は、救急隊員と連携し在住の外国人を対象とした救命講習の実施です。救急隊員と外国人との間で通訳を行いながら講習することで、より確実に救命指導を行うことができます。

そして二つ目に、消防隊員と連携し外国人宅への防災訪問を行います。災害時の緊急避難場所の周知や日頃の防火・防災指導を行うことで、有事の際の対応能力を強化することができます。

その他にも、防災アンバサダーが在住の外国人への指導を行うことで、今後外国人の防災士育成も期待できます。

「アンバサダー」という言葉には「大使」という意味があります。防災アンバサダーは各言語の「大使」として使命感を持つことで、外国人が抱える「言葉の壁」を取り除き、いかなる災害でも人と人をつなぐ架け橋となることでしよう。

「Are you ok? Can I help you?」

防災アンバサダーから差し伸べられるこの一言で、「災害に強く優しい街、MATSUYAMA」がこれから実現されるのです。